



1月 定例幹事会報告

1月14日(火)13時から、定例幹事会を開催しました。

- 1) NPO 法人資格取得
事務手続き進行、代表幹事および事務局に一任、4月の総会で決済をいただく。

2) 平成15年度予算と作業計画

(1) 平成14年度決算予想

収入の部		支出の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
会費・加入金	140,000	事業費	450,000
事業収入	100,000	管理費	150,000
助成金/補助金	610,000	装備費	400,000
寄付金	100,000		
その他	50,000		
計	1,000,000		1,000,000

(2) 平成15年度予算(第一次案)

収入の部		支出の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
会費・加入金	100,000	事業費	500,000
事業収入	100,000	管理費	300,000
助成金/補助金	900,000	装備費	400,000
寄付金	50,000		
その他	50,000		
計	1,200,000		1,200,000

(3) 各森林について作業計画を作成するための方針確認。

- ① 有明第二(トドマツ人工林生立木間伐について札幌市と調整の上、計画作成)
(境界確認)(無立木地の植林計画)
- ② 澄川(除伐は継続)(きのこ栽培は継続)(炭焼き札幌市と調整の上現地で実施)
- ③ 森林総研実験林(現地調査の上、間伐対象樹の選定および間伐計画策定)
- ④ 当別学校林(作業計画作成)
- ⑤ ロータリークラブ子供植樹行事支援(先方と調整の上協力する)

(4) 助成金申請作業経過

財政を維持するためには、適正な助成金が不可欠であり、1月末~3月末にかけて締め切られる申請書類が多い。事務局対応

(5) 救急箱の整備

3月末の入林前までに優先事項として2セット整備する。後藤あつ子さんにお問い合わせする。

(6) 作業機材の整備

作業対象森林の増加で、入林機会も増加し、分班作業となる機会もふえることから、作業機材を2セット増加整備する。

(7) ミャンマー樹木図鑑製作プロジェクト

国際交流および林業施業上意義があり、かつ、夢のある事業である。助成金の認可を前提として推進する。

出席幹事：加治豊実、酒井和彦、鎌田俊美、後藤祐司、三浦裕、湊克之
事務局：高野豊

2月 定例幹事会 12日（水）です

2月 定例幹事会は第二火曜日祭日につは12日（水）13時からに致します。決算見直しおよび予算の精度を上げる必要がありますので、参加者多数を期待します。

冬季活動 第二回 森林ボランティアセミナー報告

1月15日（水） 13時から、出席者33人、

講師： 湊 克之さん「森林作業と労働災害」

加治豊実さん「森林施業と関連用語」

森林作業の危険性の認識を深め、これまでの無事故の喜びが深まりました。これからも、一層安全確認が全員の頭と体に染み込むように心がけましょう。

専門用語の共通認識を持つことは、作業上の意思の疎通には不可欠です。現場での切り口からの解説は面白く、説得されました。

2月の森林レンジャー勉強会

日時： 2月24日（月） 13時30～16時30

場所： かでる2・7 210会議室

中央区北2条西7丁目 TEL231-4111 内36-111

講師： 札幌市消防局

「救命・養成講習の内 普通救命講習（3時間）」

受講者全員に対して、普通救命講習終了証が交付されます。

3月の森林レンジャー勉強会

日時： 3月18日（火） 13時30～16時30

場所： 札幌市ボランティア研修センター 第一研修室

中央区北1条西9丁目リンケージプラザ2F TEL223-6005

講師： 千葉至さん「山腹斜面保護と森林」

高野豊さん「ミャンマー乾燥地帯の植林状況と森林防火線」

インドネシア研修 錦織卓也さんも参加

先月号で加治豊実さんの参加をお知らせしましたが、同じツアーに錦織卓也さんも参加します。わが会員から2人の参加が認可されたことは、素晴らしいことです。ご両者とも、どうぞ良い旅をお楽しみ下さい。

shinrin-b@pc.aaapc.co.jp

苫小牧銘木市場および製材工場見学会のご案内

日 時：2月10日(月)地下鉄福住駅集合 9:30出発
見学場所：苫小牧銘木展示会場(到着予定時刻10:45)見学時間：1時間
(昼食は各自持参弁当もしくはコンビニ弁当で30分)
トドマツ間伐材の製材工場(株)ヨシダ 見学
見学終了次第解散(福住着15:30頃)
装 備：重度防寒仕様のこと、降雪時は長靴が好ましい。
持参用具：筆記用具
案内者：加治さん

※①各自、好みの丸太(物件)を3物件選択する(物件番号、樹種、長級、径級を記録)。

②それを自分の感覚で(上、中、下)評価を下す。

寄稿文より

森林ボランティア活動経過を顧みて

加治豊実

思えば、平成13年11月14日付北海道新聞記事に「森を守る人を支援」の見出しのもと、札幌の異業種交流グループ「テミス・クラブ」が道内の森林保護に活躍するボランティアグループを新たに養成する事業に乗り出した…という記事を読んで、第一回のセミナーの受講と入会申込みを済ませた時が始まりでした。

林業を職とし、木材を商としてきた私にとって、五回のセミナーには自分のもつ専門知識とは違った理論と価値観の相違を感じました。又、六回目の苫小牧演習林も過去に三回訪れていましたが、博物館は初めてで、現存あるいは実物大の標本には感心しました。

さて、私の森林ボランティア入会目的は、山仕事が好きなことと健康増進のためであった。決して森林の公益的機能発揮のための貢献など、社会奉仕の精神はもっていませんでした。しかし過去に、林業人として木材需要には貢献できたが森林整備には不実であったことが心に残り、その埋め合わせ的的心境が森林ボランティア志向の要因であると思っている。セミナー当時、まだ活動内容が具体的、かつ決定的に示されていなかった頃、私は、もしこの会が単なる森林学習会とか、森林管理局や緑化団体の主催行事への参加だけで会の独自性がなかったら、又、どこにでもある植物観察同好会のような集まりなら、入会を退く考えでした。

しかし現実に、活動フィールドとして札幌市有林が確保されたとき、協会幹部の優れた実力及び手腕に敬服を感じました。又、実際に入林と調査をし、間伐作業計画の見通しが出来た時、私は“水を得た魚”の如く活力が湧き、久しぶりに熱い情熱と充実感に満たされました。

今、森林ボランティアの実践にあたり、この作業が利益や効率性を追及する必要がなく、又、その要求もされない理想的な森林施業の本質をもって活動できることが、精神的に安寧の状態が保たれ、無償であっても“やる気と活力”が湧いてきて、新しい人生が始まったように感じております。それから森林ボランティア活動を通して同好の仲間ができ、新しい交流関係が生まれ始めてきたことも、大きな成果であると思っています。

問題点として、会員の中で一度も現場に参加されていない人がいること、暇がない、日程が合わない、あるいは個人的志向の違いなどが考えられるが、私は、今の森林施業を主体とする活動方針を続けることを希望し、私自身過去の経験を生かして森林・林業の知識を現場作業の中で楽しく話せるように心掛けて興味と理解を深めていきたいと考えています。それから会員から出された意見や発言は、実現の可否に拘らずすべて列記しておき、その場で返答できないことは幹事会で実行の可能性を検討して結論を公表しなければならぬと考えます。もう少し会員相互の意思の疎通を図る必要があると思います。

“月が欠けたら種を蒔け”

酒井 和彦

“100年経った古い木造住宅の柱から満月の夜に水が出る。”
教えてくれたのは森林作業員でも年頭のイスラエルさんだった。昼寝の習慣のない私に松林の地面に絵を書きながら何度も説明してくれた。

“日本では満月の蟹は身が入っていないとゆう話があるけど”
としか私は返事のしようがなかった。

“満月に切られた木は100年経っても泣いているのだ” その古家はここホンデュラスの旧都コマヤグア市にあるとゆう。昼間は気温が40度Cにもなり朝夕冷える熱帯高原盆地の気候がなせる業だろうと理屈をつけてこの話は忘れてしまっていた。

図書館勤務のルイス君は時々、日本からの切手を集めに私の部屋に来ていたがその日は学術雑誌を買えとゆう。学生の卒業論文の“苗畑に於ける月の相に応じたカオバ（マホガニー）とセドロ樹種の活動”が面白いとから読めとのこと。著者のカルラとゆう女学生は既に卒業していないが共同研究者のマリオ・モリナ先生は同じ町内に住むランニング好きの生態学者である。

学者でない私だが、辞書と首っ引きで一気に読み終えた。

概ねこんな内容であった。

カオバとセドロの種を1/4下弦の月、新月、1/4上弦の月、満月の日に蒔き、67日と145日目に活着率、直径と樹高、生重量、根の生重量、繊維長を比較したものである。

パラメータなど理解できないが、結論的には樹高、活着率、幹重量は1/4上弦の月の日に蒔いたものが優れ、根重量は1/4下弦の月のデータが優れていた。

出展：COMPORTAMIENTO DE CAOBA Y CEDRO EN EL VIVERO EN FUNCION DE LAS FASES LUNARES “TATASCAN” Diciembre 2000 ESNACIFOR

つまり、木の種は満月や新月でなく三日月の日に蒔くべきと主張している。

帰国して一年、このボランティア協会の活動に参加するにつれこの二つの事の意味が自分の頭の中で変化してきた。森林ボランティア活動参加で自分の感性が変わってきた感じがするのです。

“気味悪い昔話”と、“面白いけど意味のない研究”と思っていたものが“熱帯林からの貴重なメッセージ”で間違いなくどちらも森を愛する熱い心から発信されたものであると確信できるようになってきた。

ちなみに、森林破壊で自ら滅亡したマヤ文明のコパン遺跡はこのホンデュラス国立森林科学学校からすぐ近くなのです。